

防災気象情報に関する取り組みの改善

神戸地方気象台

防災気象情報の伝え方に関する検討会

平成30年7月豪雨では、気象庁による防災気象情報の段階的な発表、市町村への支援、さらには記者会見を通じた呼びかけや市町村による避難勧告等による避難の呼びかけが**必ずしも住民の避難行動につながらず**、甚大な水害や土砂災害が広域に発生し、平成に入り最大の人的被害をもたらす豪雨災害となりました。

この災害を教訓とし、中央防災会議、国土交通省はじめ防災機関において、各種防災対策の検証と今後の対応策についてワーキンググループ等を設置して検討を行うことになりました。

気象庁では、大雨が予想された場合に**危機感が住民や社会に確実に伝わり、避難等の防災行動につなげる**ために、これらのワーキンググループ等との緊密な連携の下、学識者に加え、報道関係者、自治体関係者、関係省庁による「防災気象情報の伝え方に関する検討会」を開催し、その結果を踏まえて防災気象情報の改善を進めてきました。

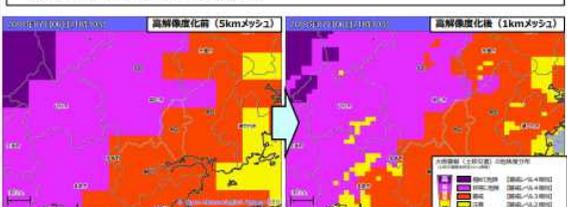
検討結果の反映

<これまでの改善事例>

土砂災害の「危険度分布」の高解像度化

国土交通省 国土政策局 防災課 土砂災害対策室

- 土砂災害の「危険度分布」の高解像度化を令和元年6月28日に実施。
- 高解像度化により、危険度が上昇するタイミングを従来と変えることなく、真に避難が必要な地域に絞り込んで避難の必要性を伝えることができるようになり、市町村等が適切に地域を絞り込んで避難勧告等を行うことを支援。



左：高解像度化前の危険度分布（平成30年7月6日の岡山県内の領域について実際に発表したもの）
右：高解像度化後の危険度分布（同領域について事後に再計算して高解像度化したもの）

「町全体が1格子に収まっていたが分割されて本当に有り難い」「避難情報の発令区域の絞り込みに活用した」といった意見を市町村からいただいている。

出典：気象庁 19

「気象防災ワークショップ」の一層の推進

市町村職員や地域防災リーダー等が**防災対応を実践的に学習できる「気象防災ワークショップ」の取組を一層推進**。（年間600市町村が参加できるような実施）



危険度分布・レベル化情報
防災気象情報の理解・活用（読み解き）
内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」に基づき解説
グループワークで災害対応を疑似体験
ガイドラインを気象状況などに当てはめて具体的な実践力の育成
多様な参加者の間で議論による相互連携の醸成と新たな気づき

出典：報道関係者提供

大雨特別警報の警報等への切替後の河川氾濫への注意喚起

国土交通省 国土政策局 防災課 水管理・国土保全課

令和2年出水期より実施

- 令和元年東日本台風における検証を踏まえ、今年度より大雨特別警報解除後の注意喚起のため、水管理・国土保全局と気象庁の合同会見を実施するとともに、河川氾濫に関する情報を発表することとした。
- 令和2年7月豪雨においては、熊本県等に発表されていた大雨特別警報の大雨警報への切替に先立って、合同記者会見を計3回開催。また、今後の水位上昇の見込みなど河川氾濫に関する情報を発表し、引き続き警戒が必要であることの注意喚起を行った。

水管理・国土保全局と気象庁との合同記者会見

河川氾濫に関する情報（球磨川の例）

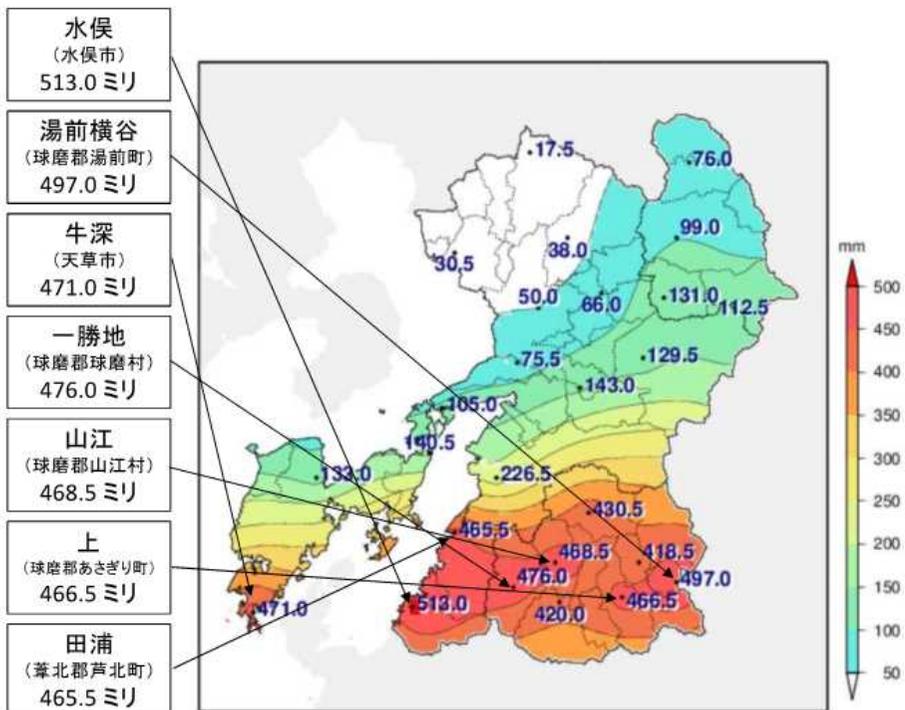
大雨特別警報は警報に切り替わりますが、既に氾濫が発生しており、引き続き身を守る行動をとっていただくようお願いいたします。

球磨川の大雨特別警報は大雨警報に切り替わりましたが、河川の水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。引き続き警戒が必要です。

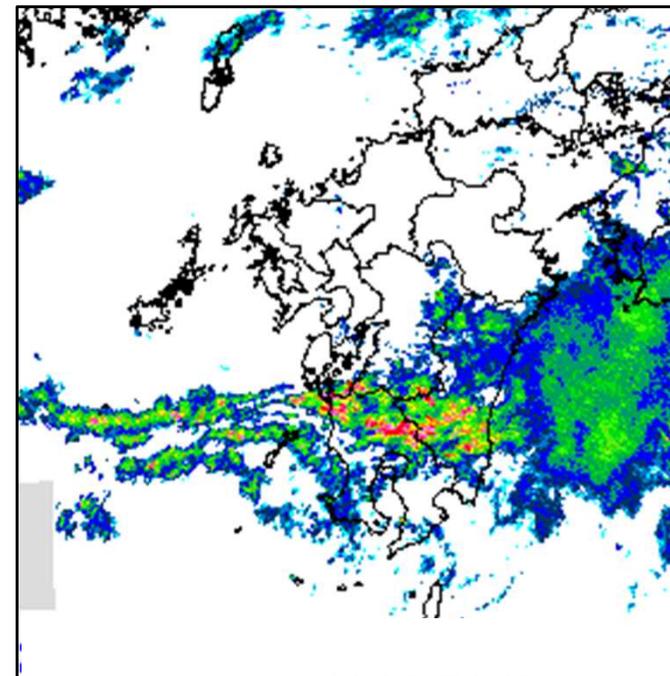
河川名	水防事務所	水防隊	今後の見込み
球磨川	球磨川水防事務所	球磨川水防隊	水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。
球磨川	球磨川水防事務所	球磨川水防隊	水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。
球磨川	球磨川水防事務所	球磨川水防隊	水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。
球磨川	球磨川水防事務所	球磨川水防隊	水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。
球磨川	球磨川水防事務所	球磨川水防隊	水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。
球磨川	球磨川水防事務所	球磨川水防隊	水位は引き続き上昇が予想され、氾濫の危険性があります。

出典：報道関係者提供

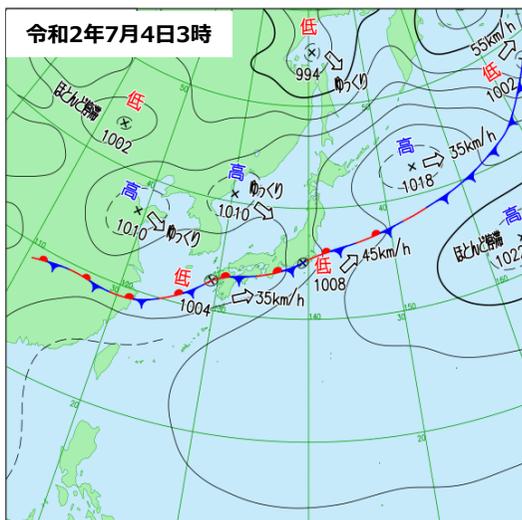
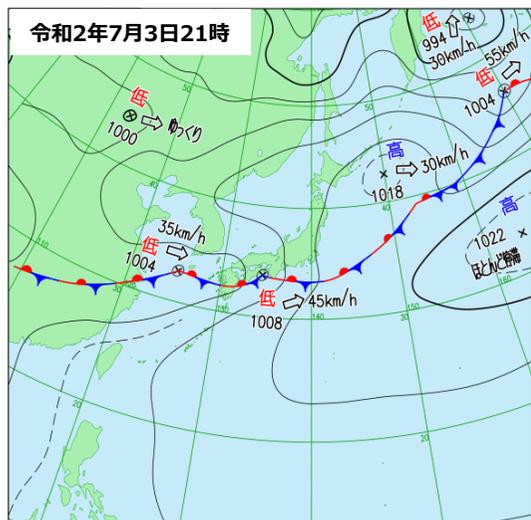
令和2年7月豪雨 ～線状降水帯による大雨～



アメダス総降水量の分布図_熊本県 (7月3日～4日)



気象レーダーによる雨雲の動き 7月3日23時～4日10時



球磨川 (熊本県八代市) 上空写真
出典：国土地理院より

改善1（線状降水帯に関する情報）

線状降水帯に関する情報のコンセプト

令和3年（2021年）6月中旬開始予定

● 背景 ～なぜ始めるのか～

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。この線状降水帯による大雨が、災害発生の危険度の高まりにつながるものとして社会に浸透しつつあり、線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めるためにそれを知らせてほしいという要望があります。

● 位置づけ ～情報のコンセプト～

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

※ この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

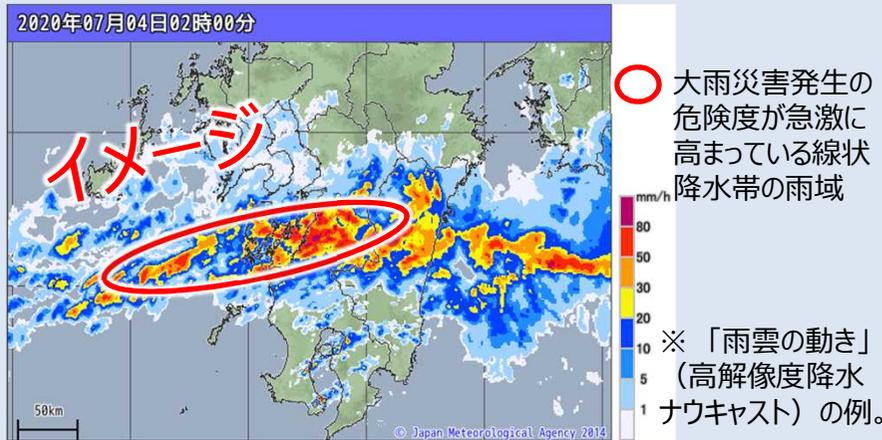
※ この情報により、報道機関や気象キャスター等が「線状降水帯」というキーワードを用いた解説がしやすくなることが考えられます。既存の気象情報も含めて状況を的確にお伝えすることにより、多くの方々に大雨災害に対する危機感をしっかり持っていただくことを期待します。

線状降水帯に関する情報のイメージ

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

線状降水帯に関する情報を補足する図情報のイメージ



※ 線状降水帯がかかる大河川の下流部では今後危険度が高まる可能性があることにも留意する必要がある旨、ホームページ等に解説を記述する。

改善2 (気象庁ホームページリニューアル)

- **見やすさ、操作しやすさ重視** (スマートフォン表示対応)
 - **トップページの分かりやすい場所からワンクリックで、地域の防災ページに遷移**
- 令和3年(2021年)2月24日更新

←PC表示

↓スマートフォン表示

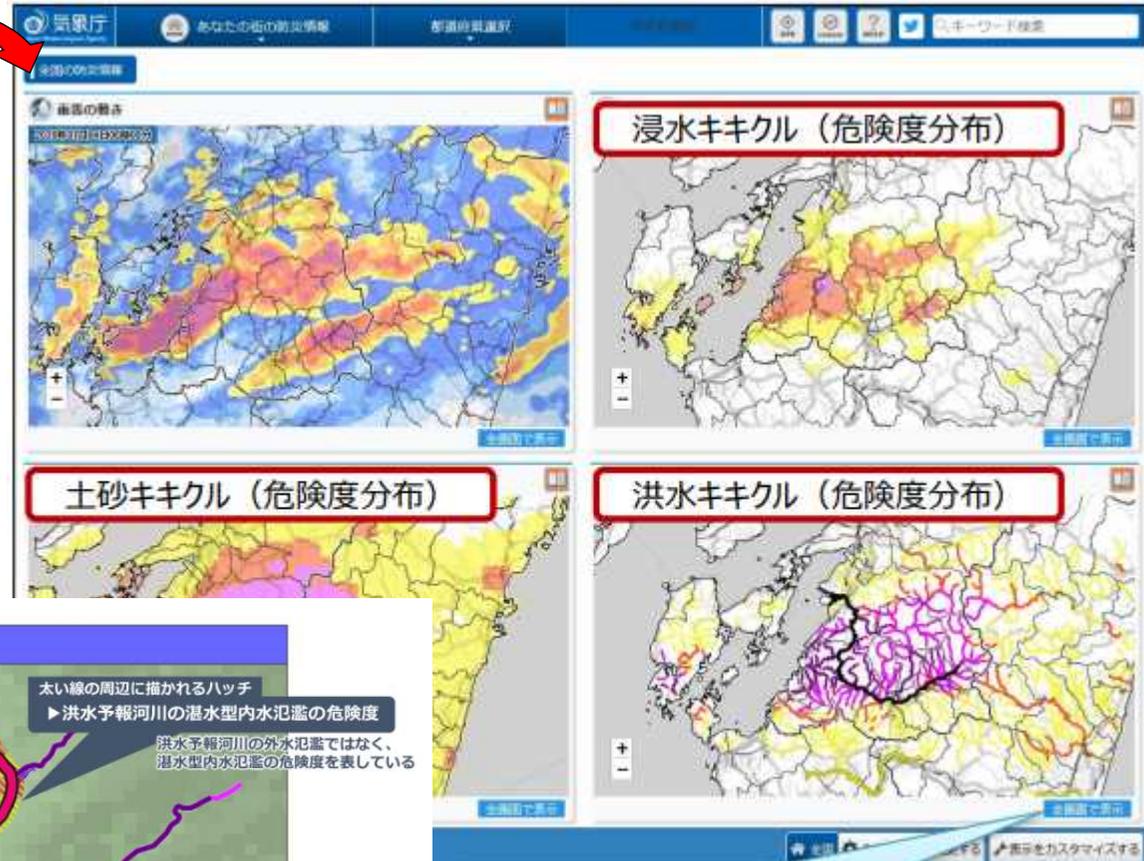


全国の気象台のページ
地域の災害に関する情報、
広報イベントや講演会など
地域情報の発信強化

改善3（危険度分布「キキクル」の改善及び普及推進）

①危険度分布の愛称を「キキクル」に決定（令和3年3月）→一般への**広報・普及促進**

②気象庁ホームページからワンクリックで雨雲の動きと「キキクル」を表示→**情報の活用促進**



③洪水予報河川における湛水型
内水氾濫の危険度表示追加
(令和2年度)

→**情報高度化**

